

岡山芸術交流

Okayama Art Summit

2025

9.26-11.24



基本計画

令和6年5月16日
岡山芸術交流実行委員会

目次

1	岡山芸術交流 (Okayama Art Summit)	2
	(1) 開催趣旨	2
	(2) コンセプト	3
	(3) ロゴマーク	4
2	岡山芸術交流 2025 開催概要	5
	(1) 名称	5
	(2) 会期	5
	(3) 会場	5
	(4) 主催	5
	(5) 事業構成	9
	(6) 重点取り組み	9
3	広報	10
	(1) 方針	10
	(2) 取組	10
4	来場者対応	10
	(1) 方針	10
	(2) 取組	10
5	サポートスタッフ	11
	(1) 方針	11
	(2) 取組	11
6	連携・協賛	11
	(1) 方針	11
	(2) 取組	11
7	鑑賞券、オフィシャルグッズ	12
	(1) 方針	12
	(2) 取組	12
8	スケジュール	13

1 岡山芸術交流 (Okayama Art Summit)

(1) 開催趣旨

岡山市は、瀬戸内特有の風土により温暖で晴れの日が多く、台風や地震の影響が比較的少ないなど非常に恵まれた自然環境を有しており、近畿と九州、山陰と四国を結ぶクロスポイントに位置することから、中四国のゲートウェイとしての役割を担っています。

岡山市の中心市街地は、商業・業務施設やコンベンション施設等が集積する JR 岡山駅周辺エリアと、歴史・文化資産が集積する旧城下町エリアの 2 つの核で構成されており、それぞれのエリアが固有の魅力を高め、面的に広げることにより、街中全体の魅力と賑わい、回遊性の向上が期待できます。

そこで、私たちが着目したのが、「芸術文化のもつ創造性」でした。

2014 年には、旧城下町エリアの新しい魅力創造のための「歴史まちづくり回遊社会実験」の一環として、「街がアートとなり、散歩がアートとの出会いとなる」をコンセプトに「Imagineering OKAYAMA ART PROJECT」を実施しました。

この成果を踏まえ、2016 年からは関係団体・行政等が丸となり、岡山城・後楽園エリアの徒歩圏内の会場に最先端のコンセプチュアルアートを集結させ、街歩きを楽しみながら作品鑑賞ができる国際現代美術展「岡山芸術交流」を 3 年に 1 度開催しています。

前回の岡山芸術交流 2022 においては、延べ 17 万 8 千人が来場し、先鋭的なアート作品やコンパクトな会場配置が来場者や国内外の専門家からも高く評価されたほか、県内小・中・高等学校、特別支援学校等への鑑賞支援にも力を入れて取り組んだ結果、会期を通して 104 校・約 7,300 人の児童・生徒が校外学習や部活動等で来場し、鑑賞を行うなど、次代を担う子どもたちへ世界的なアートに積極的に触れる機会を提供することができました。

この取り組みを通じ、わたしたちはアートに秘められた国境・地域・性別・世代の違いを超えて人と人、街と人をつなぐ無色透明の接着剤としての力を強く感じています。アートを通じて、国内外から岡山の街に様々な人々が集い、交わり、絆を深めあう。アートが人々の想像力を刺激し、新たな未来を創り出そうとする力をはぐくんでいく。そして人と人、街と人との新たな出会い、思いがけない組み合わせが生み出す化学反応は、新しい価値の創造のみならず、私たちの街・岡山のよさの再認識にもつながっていく。アートの力が岡山の新たな未来、新たな魅力を創り出していく原動力になると確信しています。

2023 年 9 月に岡山市の中心市街地に文化芸術の中核施設となる岡山芸術創造劇場ハレノワが開館し、2024 年秋には県北エリアにおいて「森の芸術祭 晴れの国・岡山」が初開催されることから、岡山地域の文化芸術に対する関心は高まってきています。また、2025 年は大阪・関西万博の開催により、海外からの多くの観光客も期待できます。岡山芸術交流 2025 の開催が国内外のアートファンの注目を集め、岡山来訪の機運を生み出すとともに、地域の魅力の再発見や創造に寄与することを期待しています。

(2) コンセプト

○ 歩いて楽しむ

岡山城・岡山後樂園周辺エリアにおいて、徒歩での回遊が可能な圏内に会場を複数配置したコンパクトな開催

○ 資源を活かす

岡山城・岡山後樂園・美術館・文化施設等、エリア内に立地する様々な歴史文化資源の特性を活かした展示を展開

○ 世界を見る

アーティストック・ディレクターが示す方向性に基づき、世界からも注目を集める最先端のコンセプチュアルアート作品を岡山に集結させた展覧会

○ 人を育む

開催を支える人材、将来の地域文化の一翼を担う若手人材の育成

(3) ロゴマーク



デザイン：ピーター・サヴィル Peter Savill

1955年、イギリス・マンチェスター生まれ。イギリスを代表するグラフィックデザイナーで、1970年代から80年代にかけて手がけた、マンチェスターのインディペンデント・レコード・レーベル「ファクトリー・レコーズ」のジャケットのデザインで広く知られる。その活動は音楽関連に止まらず、アドビシステムズ、CNN、ジバンシィなどイギリス国内外の有名企業のデザインも手がける。

アーティストとしても活動しており、「岡山芸術交流2016」では、アナ・ブレスマン（Anna Blessmann：1969年ドイツ・ベルリン生まれ）とのアーティストユニットとして、旧後楽館天神校舎会場にて「触れる作品」(Touching Work)を展示。

デザインコンセプト：

オーケー(いいね)、岡山。

オーケー(いいね)、岡山芸術交流。

今や世界の共通言語であるオーケー。いいね、を意味する、その2文字の形と音を「オカヤマ」の英語表記と音に重ねたのがロゴデザイン。オーケーという記号が表す肯定の姿勢を、岡山と岡山芸術交流に反映させ、ロゴデザインを目にした人に岡山への興味、岡山芸術交流への賛同を促す。

2 岡山芸術交流 2025 開催概要

(1) 名称

岡山芸術交流 2025 (おかやま げいじゅつ こうりゅう にせんにじゅうご)
(英語表記) Okayama Art Summit 2025

(2) 会期

2025年9月26日(金)～同11月24日(月) 開館日は計52日間。
休館日：毎週月曜日(祝日の場合は開館し翌日休館)

(3) 会場

旧内山下小学校、岡山県天神山文化プラザ、岡山市立オリエント美術館などに
加え、岡山城、岡山後楽園、岡山芸術創造劇場ハレノワ、石山公園などを検討す
る。(次ページ図参照)

(4) 主催

岡山芸術交流実行委員会

会 長 大森雅夫(岡山市長)

副会長 笠原和男(岡山県副知事)

// 松田 久(岡山商工会議所会頭)

総合プロデューサー 石川康晴(公益財団法人石川文化振興財団理事長)

総合ディレクター 那須太郎(TARO NASU 代表/ギャラリスト)

アーティストック・ディレクター フィリップ・パレーノ(アーティスト)

パブリックプログラム・ディレクター 木ノ下智恵子

(大阪大学21世紀懐徳堂准教授)

アーティストック・トランスレーター 島袋道浩(アーティスト)

監 事 井上信二(井上公認会計士事務所)

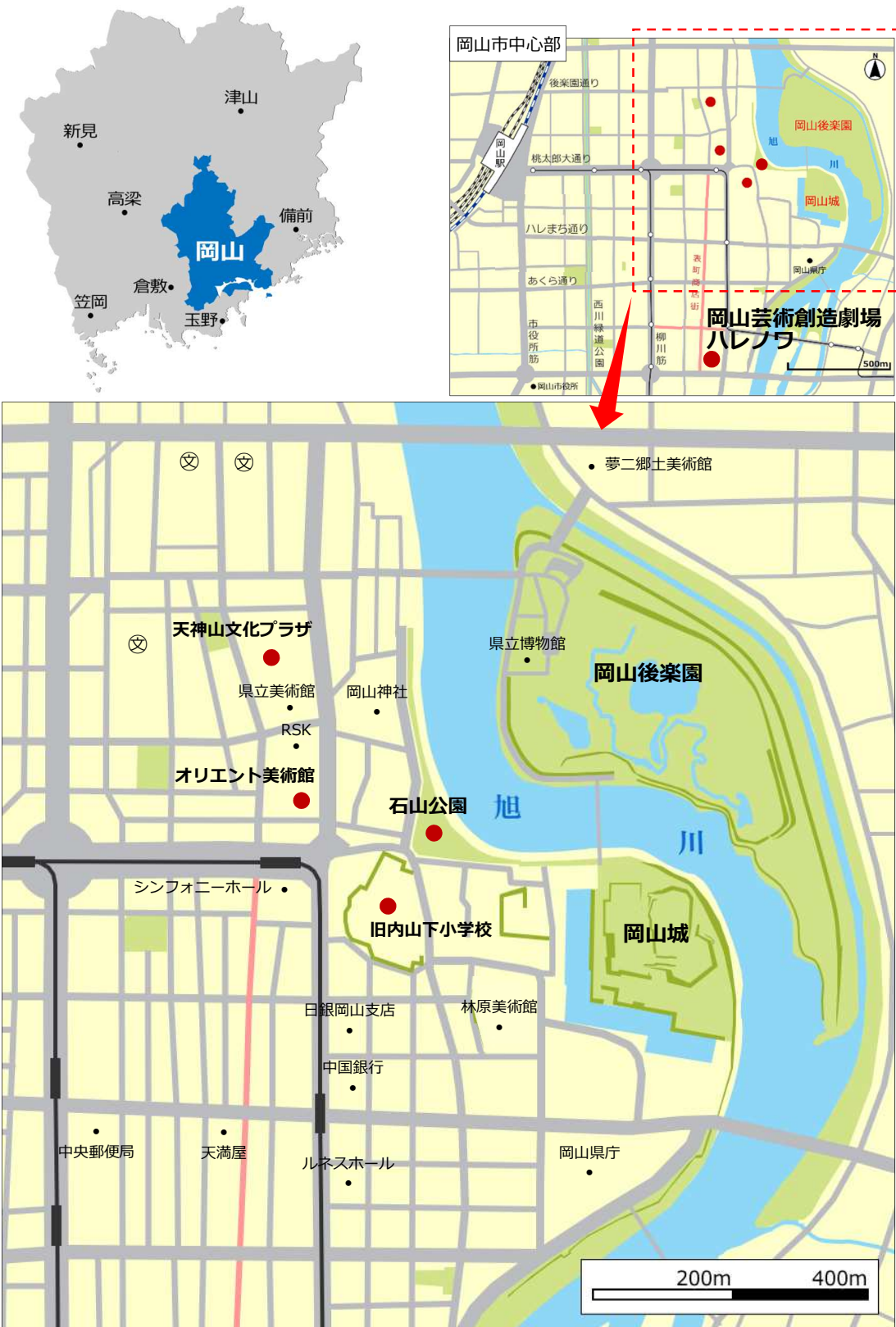
顧 問 田口裕士(岡山市議会議長)

// 那須保友(国立大学法人岡山大学学長)

// 宮長雅人(株式会社中国銀行取締役会長)

構成団体 岡山市・岡山市教育委員会/岡山県/岡山商工会議所/(公益
社団) おかやま
観光コンベンション協会/岡山カルチャーゾーン連絡協議会/大学コ
ンソーシアム岡山/(株)山陽新聞社/RSK 山陽放送(株)/岡山放送(株)/テ
レビせとうち(株)/(公益
社団) 岡山県バス協会/(一般
社団) 岡山県タクシー協会/西
日本旅客鉄道(株)/(公益
財団) 岡山文化芸術創造/(公益
財団) 石川文化振興財団

会場関連MAP



[アーティスティック・ディレクター]

フィリップ・パレーノ Philippe Parreno

[略歴・紹介]

1964年、アルジェリア生まれ。現在はパリにて制作活動。映画、彫刻、ドローイング、テキストなど、さまざまなメディアにわたる作品で高い評価を得ている。

パレーノは展覧会を媒体として捉え、その構築をプロセスの中心に置くことで、展示体験を根本的に再定義することを試みてきた。個々の作品の集合体としてではなく、一貫した「もの」としての展覧会の可能性を模索し続けている。

近年の主な展覧会に2023年「Marilyn」エスパス・ルイ・ヴィトン、ミュンヘン、2022年「Echo2: a Carte Blanche to Philippe Parreno」Rotunda of the Bourse de Commerce、ピノーコクシオン、パリ、「La

Quinta del Sordo」プラド美術館、マドリード、2019-2020年「A Manifestation of Objects,」(ワタリウム美術館、東京)、2017年「Synchronicity」ロックバンド美術館、上海、2016年「Anywhen, Hyundai Commission 2016」タービンホール、テート・モダン、ロンドン、2015年「H {N}Y P N{Y} OSIS」パーク・アヴェニュー アーモリー、ニューヨーク、2014年「The Illusion Of Light」フランソワ・ピノー財団 パラッツィオ・グラッシ、ベネツィア、2013年「Anywhere, Anywhere Out Of The World」パレ・ド・トーキョー、パリ、2012年「Philippe Parreno」バイエラー財団、バーゼル、他。ヨーロッパをはじめ、アメリカ、日本、韓国を含むアジアなど各国の主要美術館、ギャラリーにて展覧会歴多数。

また、岡山では、2014年「歴史まちづくり回遊社会実験」の一環として開催した現代アート展として実施された「Imagineering OKAYAMA ART PROJECT」、岡山芸術交流2016にアーティストとして参加。



Photo © Ola Rindal

[2024 年の展覧会]

- ・ リウム美術館（ソウル）
フィリップ・パレーノ：「VOICES」
Philippe Parreno: VOICES
会期 2024 年 2 月 28 日（水）～ 7 月 7 日（日）



Philippe Parreno VOICES, Exhibition View, Leeum Museum of Art, Seoul, 2024
© Philippe Parreno. Photo credit: Andrea Rossetti

- ・ ポーラ美術館（神奈川県足柄下郡箱根）
フィリップ・パレーノ：「この場所、あの空」
Philippe Parreno: Places and Spaces
会期 2024 年 6 月 8 日（土）～ 12 月 1 日（日）

[岡山芸術交流 2025 ロゴマーク]



(5) 事業構成

① 現代アート展

岡山城・岡山後樂園周辺の歴史・文化施設を中心に今回の展覧会タイトルを体現する現代アート（コンセプチュアルアート）作品をコンパクトに展示する。参加アーティストはアーティストック・ディレクター及び総合ディレクターが世界で活躍しているアーティストの中から選出する。

屋外展示となるものを除き、原則有料鑑賞とする。

② パブリックプログラム

岡山芸術交流が地域に開かれ、浸透し、持続・発展していくため、市民・県民が展覧会により親しんでもらうための各種プログラムを実施する。展覧会への来場のきっかけづくりとしての役割も担うプログラムとして、展示会場以外の場においても広く開催する。

③ アーティストック・トランスレータープログラム

岡山芸術交流に関わっていなかった市民・県民、団体や作家（出身・在住・ゆかり等）を巻き込み、現代アートにあまり触れることのなかった市民・県民が興味を持ち参加したくなるようなプログラムをアーティストならではの新しい視点で実施する。

④ 連携プログラム

現代アートに関するものに限定せず、展覧会を盛り上げていくために官民等と連携し各種プログラムを実施する。

(6) 重点取り組み

① 地元への浸透

市民・県民、産業界、教育機関、文化団体など様々な主体の参画や鑑賞を促し、多くの人々が3年ぶりの開催を待ちわびる、地域に根付いた国際現代美術展としていく。

② 子どもの鑑賞

これからのAI共存時代を担う多くの子どもの、世界的な現代アート作品を生で体験する貴重な機会を提供する。

③ 県外・海外からの観光誘客

世界的な国際現代美術展として「岡山芸術交流」の確立及び岡山のイメージ向上に努め、インバウンド観光を強化し、国内外から多くの誘客を促進するとともに、開催地・岡山の魅力発信も併せて展開し、海外からの誘客に結び付ける。

3 広報

(1) 方針

開催前年から、様々な機会をとらえ、岡山芸術交流の認知度向上を図るとともに、市民・県民や団体・企業からの参画及び鑑賞を促し、開催の機運醸成を行う。

また、世界的な国際現代美術展としての岡山芸術交流の情報発信を行い、岡山の都市イメージ向上を図るとともに、2025 年は大阪・関西万博の開催により海外から多くの観光客も来訪されることから、インバウンド観光を含め、県外、海外からの多くの誘客を目指す。

(2) 取組

早期から各メディアを通じたプレスリリースや地元企業や市・県とも連携し、岡山芸術交流の認知を獲得するための情報発信を行う。また、展覧会タイトルや作家を発表するたびに、展覧会自体の魅力の情報発信を行う。

海外については、効果的なアートメディアを通じて欧米を中心とした現代アート関心層へのアプローチを行うとともに、岡山県内宿泊旅行が多く、直行便のある台湾を中心とした東アジアからのインバウンド観光客の誘客を積極的に行う。

4 来場者対応

(1) 方針

来場者が岡山の街歩きとともに複数の展示会場を楽しめるような対応を行う。

(2) 取組

総合案内所や有料会場での券売・前売引換所を設置し、展示会場、作品やイベント案内に加え観光案内を行うとともに、効率よく鑑賞ができるように展示会場 MAP、ウェブサイトを整備し、街歩きを楽しめるモデルコースの提供を検討する。

また、海外からの来場者に対しては、多言語対応や FreeWi-fi サービスの提供を行う。

5 サポートスタッフ

(1) 方針

会期中の運営サポートをはじめ、来場者に作品鑑賞とともに岡山の街を楽しんでいただくための「街のコンシェルジュ」となる、サポートスタッフを広く募集し、ともに岡山芸術交流を盛り上げていく。

(2) 取組

市民・県民や学校・文化団体・地元企業等から幅広くサポートスタッフを募集する。展覧会の会場は岡山を代表する歴史文化エリアであるため、岡山芸術交流の開催内容のみならず、観光的な要素についてもカリキュラムを編成し研修を行う。また、会期中には、会場の案内、作品看視、インフォメーションセンターでの対応のほか、学校来場時の案内やイベントの補助など活動の幅を広げていく。

6 連携・協賛

(1) 方針

文化芸術等の団体、教育機関や企業との連携や、開催の趣旨に賛同し協賛や寄附をしていただける企業・個人とともに、3年ぶりとなる岡山芸術交流の開催を通じて、地域全体の盛り上げを図る。

(2) 取組

同時期に開催される、瀬戸内国際芸術祭 2025 や国際芸術祭「あいち 2025」などの国際現代美術展や、美術館等での企画展、岡山芸術交流と親和性の高いイベント等と相乗効果を生み出すような連携を行う。

また、岡山芸術交流の開催趣旨に賛同する企業や個人に対し様々な形での協力、協賛や寄附を働きかけ、パートナーシップを築き、3年に一度の国際現代美術展である岡山芸術交流と一緒に盛り上げていく。

7 鑑賞券、オフィシャルグッズ

(1) 方針

来場者が購入しやすく、複数ある有料会場を周遊しやすい鑑賞券体制を検討する。また、岡山芸術交流 2025 の記念となるようなオフィシャルグッズを検討する。

(2) 取組

前回の状況や他の国際現代美術展の状況を踏まえ、鑑賞券の料金、券種、割引制度、販売方法（オンラインを含む）の設定を行う。また、岡山芸術交流 2025 のロゴマークや展覧会タイトル等を用いたオフィシャルグッズの開発や販売を検討する。

8 スケジュール

	現代アート展	広報	来場者対応	サポートスタッフ	連携・協賛	鑑賞券		
2024年	4月						4月	
	5月	基本計画策定						5月
	6月						6月	
	7月				第一次 協賛募集		7月	
	8月						8月	
	9月	参加アーティスト 発表(未定)					9月	
	10月		チラシ ポスター ウェブサイト				10月	
	11月	実施計画策定						11月
	12月				募集		12月	
2025年	1月	会場視察				第二次 協賛募集	1月	
	2月						2月	
	3月						3月	
	4月						4月	
	5月		チラシ ポスター ウェブサイト				5月	
	6月						6月	
	7月	展示計画		MAP制作	研修	前売引換 券販売	7月	
	8月	作品制作		Wi-fi設置			8月	
	9月		CM				9月	
	10月	岡山芸術交流2025 (9/26~11/24)						10月
	11月						11月	
	12月						12月	

岡山芸術交流実行委員会事務局

〒700-8544 岡山市北区大供一丁目1番1号(文化振興課内)

TEL:086-221-0033 | FAX:086-221-0031 | E-MAIL:info@okayamaartsummit.jp

WEB: www.okayamaartsummit.jp